

ナカオサ

人の「ところを包む」、地域に貢献・密着する企業

外部ス・ペシヤリストの力を活用、営業・製造・経理の効率化を図る

創業73年、変化する時代のニーズに常に対応

禍2年目までは売上面でやや厳しさがあったものの、それほど落ち込まずに、なんとか生きながらえてきたといった状況です」と語る。

ナカオサの紙器製造部門では、「プリプレス・プレス・ポストプレスまで一貫生産体制の充実化」を基本理念に業績を伸ばしてきた。あわせて包装資材全般を扱う「パッケージプラザ」では、包装用品・事務用品・生活雑貨などの販売のほか、カタログ、パンフレットなどの印刷物も取り扱っている。

仲長社長は「弊社は印刷紙器がメインで、売上げの80%が紙器製造、20%が店舗販売で成り立っています。コロナ

その背景として指摘するのが、「一貫生産体制の充実化」という。仲長社長は、「常に情報収集とネットワーク活用を基本に、異業種も含めた情報交流にも積極的に参加している」と語り、時代を先取りした設備投資を随時進めてきたことがあげられる。

広いスペースの工場内には、高精度紙器設計システム、CTPシステム装置、最新CADシステム、オフセット印刷機、汎用自動製箱機、平盤打抜機、窓貼機、ブラン



抱負を語る仲長社長（会議室で）

1950年に創業した(株)ナカオサ（仲長孝社長、本社=千葉県野田市）は、印刷紙器をメインにオリジナル包装資材のエキスパートとして、顧客ニーズに合わせた包装関連商品を提供してきた。紙箱・紙袋・包装紙から食品容器に至るまで、デザインや印刷加工を手掛けている。1980年、仲長孝社長の入社1年後には5色オフセット印刷機を導入、さらに4年後にはセットアップ業務を開始するなど業務内容を拡大。1990年、現仲長孝社長が二代目社長に就任後には、実務を行う本社のほかに加工工場を増設、包装資材の店舗設立と拡充策を展開、主力製品の印刷紙器については、「企画から制作、カラーマネージメントを中心とした製版・刷版、表面加工、抜き・貼り加工、窓貼り加工など独自の生産ラインを確立」して躍進を続ける。コロナ禍にあっても安定的に収益を確保した背景はどこにあるのか。千葉県野田市の本社工場を訪ね、仲長社長に話を聞いた。



「コウノトリも住む里」野田市もアピールした専用トラック



◀ 玄関脇のウエルカムボードも季節ごとに変化

▶ 社長室には、江口寛通氏（前千葉工組理事長）が描いた絵画も



▶ 国道に面した玄関アプローチ



季節ごとに入れ替えられる玄関の絵画



ナカオサでは、コロナ禍となる3年ほど前から、営業・製造・経理のスペシヤリストを外部から受け入れ、社内体制の再構築をめざした。仲長社長は「コロナの時期に変わったことといえば、外部の人材に依頼して営業顧問になってもらい、数値管理や若手社員の教育に力を入れたことだ。それによ

外部ス・ペシヤリストを活用して営業・製造・経理を効率化はかる

キングシステムなど、常に時代のニーズの変化に対応しながら導入した最新機器が見て取れる。

最近では、BCP（事業継続力協力計画）に関わる認定をはじめ、「ちばSDGsパートナー登録」「FSC認証」など、現代に必要とされる視点も採り入れ、バランス感覚を備えた企業として躍進している。

「客観的な視点を社内に盛り込むことで、会社の長所や短所に気づき、はじめて改善することができるよう。自分の会社を客観的に見るのが難しいため、外部の人に気づきを指摘してもらおうというのは貴重な機会です。コロナ禍でも会社が傾くことがなかったのは、月に数回来てくれる外部コンサルタントがいたからだと思っています」と語る。

製造面でも同様に、合理化を図ることを目指し、外部ス・ペシヤリストが月2回のペー



ブランキング工程



前処理工程



貼工程



打抜工程



印刷工程

ることで、基本的なコストパフォーマンスの方策が見えてきます。弊社では、今持っているものを如何にきめ細かに整え、活用していくかということに重点を置いています。これによりコロナ禍でもなんとか頑張っていくことができていると思います。」

受け入れる覚悟が必要とされる外部スペシャリストの導入

しかし、外部の人間を受け入れることは難しい面も多々ある。外部の意見を聞くこと

で、今までのやり方から思い切った舵取りをする必要があるため、それ相応の覚悟が必要とされる。

「一番大切なのは「人」、社歌を持つ数少ない紙器会社

同社の経営理念は、企業活動を通じ、さらなる雇用を生み出すことで、地域社会へと貢献することだ。

現在、従業員約67名のうち、パートが約7名、店舗が2名、営業が5名、製造が約50名だ。地元に着した中小企業として地域に貢献すべく、地元の高卒者を採用するなど、人材雇用・育成にも積極的だ。

経営理念には、「お客様主義」「社員の幸福」「健全な職場」「健全な経営」を掲げ、仕事を通じて社員が達成感や幸福感を得られること、透明で健全な職場・経営などを目指す。

社内では「品質スローガン」が掲げられており、「品質方針」↓「品質目標」↓

「受け入れる方はもちろんですが、外部から新しい場所に行く人にとっても大変なことだと思えます。両者にとつての最終目的は、会社を継続させることで一致しています。私自身、自分はゼネラリストだと思っても、知らないことばかりですから、自分でできないところはスペシャリストに頼るといふ考えは以前からありました。」

ナカオサ 社歌「こころを包む」

- 一. 江戸の流れの恵みうけ 地域に根ざす人づくり
創業以来の誇りを胸に
あぁ ナカオサ こころを包む
- 二. 世界基準の技みがき 我らが創りし未来の色
創意工夫の強みを活かし
あぁ ナカオサ 明日を包む
ナカオサ、ナカオサ こころを包む



社歌を作った製造第二部部長の森永雅也氏

「行動指針」と3段階に分けて具体的な目標を掘り下げ、仕事上とるべき具体的な行動指針を明文化し、社員の心に留めやすいようにしている。こうして高品質製品が保たれ、顧客満足につながり、企業価値も安定化されるという。また同社は、社歌を持つ数少ない中小企業でもある。仲長社長は、「弊社では、創業60周年記念事業で社歌を作りました。作詞作曲は地元出身の社員が担当し、自分たちの思いを歌詞に込めました。社歌を持っている会社はあまりないと思うのですが、『一番大切なのは人であり、会社は地域に根付いていくべきもの』という内容になっています。その中で、『こころを包む』という歌詞があるのですが、その言葉に惹かれてきたという新入社員もいました」と笑みを浮かべて語る。